

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
62	川崎市立梶ヶ谷小学校	近清 えり子

学校教育目標	今年度の重点目標
自ら学び 自ら考え 心ゆたかに たくましく生きる子 ～みんなが笑顔 学校って楽しいな！ 梶ヶ谷の町 大好き～	主体的に学ぶ子どもの育成(自主・自立) 共に支え合う子どもの育成(共生・協働) 自分から行動する子どもの育成(創造・地域・安全)

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 主体的に学ぶ子どもの育成 (自主・自立)	・楽しい学級・学校づくり	・「学校生活が楽しい」と感じている児童が多い。 ・児童が活躍する場面を意識的に設定し、安心できる居場所づくりに取り組んだ。	・安心していられる居場所づくりのために悩みを抱えている児童の支援を積極的に行い、楽しい学校づくりに努めていく。
2	・子どもたちが「わかった」「楽しい」と思える授業	・ほとんどの児童が「わかった」「楽しい」と思って、授業に参加している。 ・「できる」とは点数が良いことだと思いがちであるが、学習過程の中で「わかった」という学びを実感できる授業を展開していきたい。	・「わかる」授業とは何か、教員がこれからも絶えず意識し、研究を積み重ねていく。 ・支援が必要な児童には、学年やCOと協力して支援方法を検討していく。 ・「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質能力を育成しながら、全員がわかる授業をめざす。
3	自ら学び、自ら問題を解決する教育活動	・GIGA端末を用いることにより調べたり解決したりする学習の幅が広がった。また、家庭でもGIGA端末を活用して学習に取り組むことができるようになり、自ら進んで学習する力がついてきた。 ・授業参観でできるだけ、問題解決をしている姿が見られる授業を設定し、保護者に伝えるようにしているが、まだ課題が残る。	・GIGA端末を活用するようになり、自分たちで進んでわからないことを調べる習慣がついてきた。端末を持ち帰る機会を増やし、学校だけでなく家庭での学習にも端末を活用し、学びを継続していく。 ・今、大事にしている教育は、問題を解決しながら学習を進めていくことだということを面談や懇談会、学年だより等で保護者に伝えていく。
4	「あたたかな聴き方・やさしい話し方」を実践した授業づくり	・継続して指導してきたことなので「あたたかな聴き方・やさしい話し方」が定着してきている。普段の学習で教員が意識していることが児童にも伝わっていると感じるため、引き続き取り組んでいきたい。 ・学年の実態に応じた「あたたかな聴き方・やさしい話し方」のめあてを確認し、振り返りを十分に行いながら実践しているため成果が上がってきている。	・これまで「あたたかな聴き方・やさしい話し方」を学年で取り組み、振り返ってきた成果が出たと言える。今後も教師が意識して指導し、全ての教育活動で実践を積み重ねていく。 ・授業中に自分の考えを伝えたり、人の話を考えながら聴いたりする場面を作り、あたたかな聴き方・話し方の指導を継続していく。
5 共に支え合う子どもの育成 (共生・協働)	笑顔であいさつ、元気な返事、「ありがとう」の取組	・運営委員会だけでなく、学級でのあいさつ運動にも広がり、成果がでてきている。 ・自分の知っている人や仲の良い友だちにはあいさつができるが、地域の方やあまり知らない友達にはあいさつができないことがある。教師も積極的に、あいさつをして、活性化したい。	・運営委員会でのあいさつ運動が効果的であった。もっと児童間のあいさつが増えていくように、今後も取り組んでいきたい。また、教職員も積極的にあいさつをすることであいさつができる児童を増やしていく。 ・引き続き児童会活動の充実に取り組み、今後もあいさつに関わる取組を継続することで、気軽にあいさつができる環境を整える。
6	自分らしさを発揮し、自己肯定感を高める取組	・異学年交流がよい影響となり、自分より下の学年の児童にやさしく接することができる。 ・朝会や共生*共育プログラムのエクササイズを通して、自分や友だちのよさを見つけて活動継続することで、自己肯定感が高まってきている。	・交流やお互いの良さを認め合う活動を増やし、自分や友達の良いところを認め合う機会を意識し、取り組む。 ・引き続き共生*共育プログラムの充実を図り、人間関係づくりに力を入れていく。

7	共に支え合う子どもの育成 (共生・協働)	人権教育の推進といじめを起こさい取組	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめはぜったいにいけない」とは思わない割合が0パーセントに近くなり、いじめを起こさいための行動や言葉かけなどについて理解が広がった。 年度の早い時期に「いじめはあってはならない」ことを朝会で呼びかけたり、いじめノックアウト宣言に取り組んだことで、児童の意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝会での呼びかけやいじめノックアウト宣言、SOSの出し方の学習を年度の早い時期に行ったことで成果が上がった。来年度も計画的に進める。 人権教育の推進といじめを起こさせないための取組をこれからも充実させる。 「いじめがいけない」ということを教職員が共通理解し、指導の徹底を図っている。いろいろな場面で人権意識を育てていくとともに、いじめにより悲しい思いをする子が出ないように児童の様子を観察していく。同時にいじめている児童の背景も考えて指導する。 いじめが起こる前から児童観察をしっかりと行っていく。
8	自分から行動する子どもの育成 (創造・地域・安全)	自分たちの力でより良い学校を創っていく活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学級会グッズを作成し、学級会が開きやすい環境をつくった。必要な時に学級会を進められるようになった。 朝会などを通して、みんなのために頑張っている姿を紹介し価値づけすることで、さらに意欲が高まった。 「あたたかな聴き方・やさしい話し方」の定着により、自分のアイデアを学級や学校のために発信していこうとする雰囲気ができている。 係活動があまり充実していないので、自分たちでアイデアを出すことに楽しさを感じ、自信がつくようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校や学級のために自分の考えたことを実践している様子を学年だよりや面談、懇談会等で伝えていく。 朝会で、各学年が学校のために活躍している取組を発表することで、自分たちの力で学校を創っているという意識を高める。 クラスの係活動を充実させるとともに、高学年は委員会活動も充実させる。自分自身が学級や、学校をどう動かしたのか実感できる活動にする。
9		川崎市や梶ヶ谷のまちに興味・関心をもち、大好きになる地域素材・地域人材の活用	<ul style="list-style-type: none"> 地域素材を生かした学習を積極的に取り入れることで、地域に対する興味・関心が高まった。 総合的な学習の時間の指導計画を見直したため、計画的に地域素材を取り入れた学習に取り組めるようになった。 コミュニティースクールとして、学校内外の情報を共有し、地域ぐるみで子どもたちを育てる基盤をつくることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方から、たくさん学習支援をしていただき感謝している。今後も地域を意識して学習計画を立てて取り組んでいく。また、学校だよりや学年だより等で発信していく。 コミュニティースクールとして、引き続き地域、保護者と連携しながら学校運営を推進する。
10		子どもが自ら危険から身を守る安全教育・防災防犯教育・情報モラル教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 道徳、学活、総合的な学習の時間などを通して、SNSのよさと危険性について考え、自分事としてとらえられるようにした。 シェイクアウト訓練を行うことで、自分の命は自分で守ることを意識して行動する児童が多くなった。 GIGA端末の活用に関しての情報モラル教育が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル教育は、教科だけでなく日常生活の中でも指導していく。 朝会などを通して、安全教育の意識を高める講話を行い、意識を高める。 学校だよりやホームページを通して安全教育、防災防犯教育、情報モラル教育の取り組みを報告し、保護者と連携する。
学校関係者の評価			学校運営のまとめ	
<ul style="list-style-type: none"> あいさつができる児童が増えてきてうれしい。今後も通学路や道であいさつを継続して、仲の良い関係をつくってきたい。 学校をよくしていこうとする考えを聞き、自分で考えて行動する力がついてきているように思った。 積極的に自分の意見を述べる児童が多く、日頃の学習の成果を感じることができた。 GIGA端末を活用した授業や話し合い活動をしている授業が見られ学校教育の変化を感じる。 			<ul style="list-style-type: none"> 「あたたかな聴き方・やさしい話し方」を基盤とした教育活動が定着してきて、成果が上がってきた。めあてのもとせ方や振り返りについても充実させ、全クラス統一して指導できる環境を整える。また、音楽を窓口とした校内研究をさらに深め、考える力を育てていく。 人権意識を高める取組を多く行ってきた。自分を知り、好きになることが人を大事にすることにつながると考え、自己肯定感を高める活動を継続していく。また、教職員の人権意識を高める研修も行う。 学級や学校は児童が創っていくという意識を育て、主体的に活動できる児童を育てていく。考えて行動した活動を価値づけ、朝会などで紹介し、全校に広める取組を継続する。 地域素材の学習を積極的に取り入れ、地域の方に感謝の気持ちをもつとともに、100周年を迎える川崎市に親しみがもてる取組を進める。 	